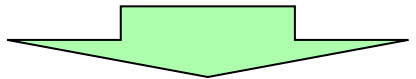


十和田市(東北圏ブロック)

【計画期間 22年3月～27年3月】

・幕末 : 新渡戸傳らにより開拓された計画都市
 ・明治期 : 陸軍軍馬補充部がおかれ中核的都市として発展
 ・現在 : 観光地十和田湖を抱える上十三地域の最大都市

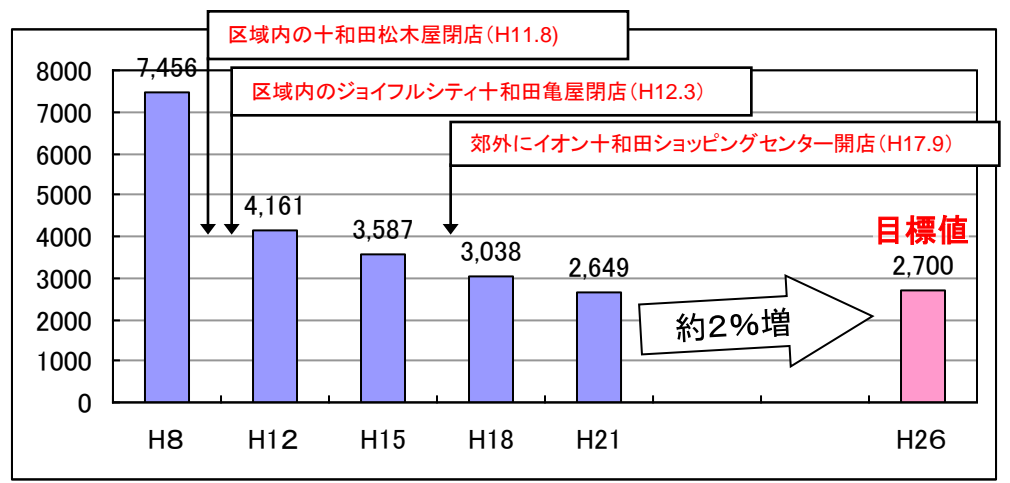
- 郊外大型店の出店、既存大型店の撤退等により、空き店舗の増加、中心市街地での人口減少など活力が減少
- 中心部に公共施設や各種サービス施設が集中する利便性の高さがまちなか居住につながっていない
- 十和田市現代美術館(H20.4開館)の来館者(年間約20万人)が市街地に出て行かずにぎわいにつながっていない



- 居住人口
H10: 3,537人 → H20: 2,753人(▲22.2%)
- 歩行者・自転車通行量の減少
H8: 7,456人 → H21: 2,649人(▲64.4%)

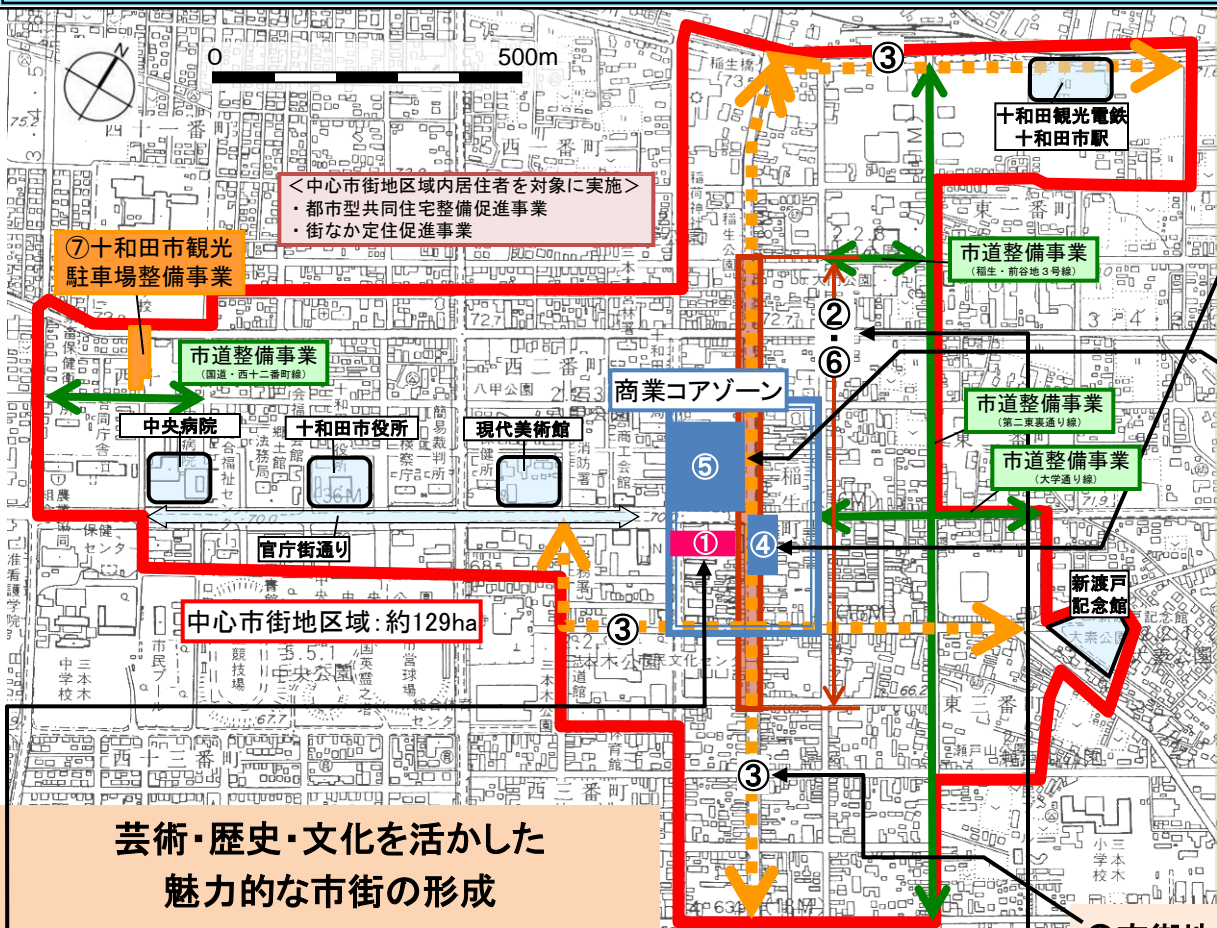
目標	指標	現況値(H21)	目標値(H26)
芸術・歴史・文化を活かした魅力的な市街の形成	歩行者・自転車 通行量 (4地点・平日/休日の加重平均)	2,649人	2,700人
元気なお店や快適な空間づくりと、安心安全な生活環境の整備	居住人口	2,697人	2,740人

【歩行者・自転車通行量の動向と数値目標】



- 現代美術館と連携し、商店街への現代アート作品の設置や商業施設へのギャラリー整備、アーティストデザインの看板、サインの設置、アートイベントの実施等により、回遊性の向上を目指す。
 ⇒ ①(仮称)稲生プラザ・ウエスト整備事業、②アートファニチャー整備事業、③歩行者サイン整備事業 など
- 中心部への商業施設、住宅施設、医療モール等の集中的整備により、まちなかのにぎわい創出、居住推進を目指す。
 ⇒ ④(仮称)稲生プラザ・イースト整備事業、⑤(仮称)駒っこモール整備事業 など

十和田市中心市街地活性化基本計画の事業概要



元気なお店や快適な空間づくり、
安心安全な生活環境の整備

いなおい
○稲生プラザ・イースト(仮称)整備事業 (④)

商業施設と共同住宅、くつろぎ広場
や市民ギャラリーを併設した商業住
宅複合施設の整備。



いなおい
○駒っこモール(仮称)整備事業 (⑤)

多様な買い回り商品をもった物販・
飲食・医療等の機能を持つ新たな商
業集積施設の整備とポケットパーク
の整備。



○市道整備事業(4路線)

買い物客や観光客の安全性を確保するため、狹隘である歩道
を拡幅するなどの整備。

○都市型共同住宅整備促進事業・街なか定住促進事業
民間事業者が実施する区域内の優良共同住宅の建設費補助
や区域内に転居、転入する若年世帯等の家賃補助を実施。

○市街地歩行者サイン整備事業(③)

特徴的な歩行者
サインで中心市
街地内の主要な
施設等を結び、
来街者の回遊を
促す。



○十和田市観光駐車場整備事業 (⑦)

十和田市のシンボルロードである
官庁街通りのイベント等に対応し
た観光駐車場を整備。



○アート賑わいチャネリング事業(⑥)

美術館等への来館者へ 各個店の独自サービス
提供を中心として、馬車運行、アートや食のイベ
ントを開催し、観光客を商店街に誘導。

<中心市街地区域内居住者を対象に実施>
・都市型共同住宅整備促進事業
・街なか定住促進事業

⑦十和田市観光
駐車場整備事業

市道整備事業
(国道・西十二番町線)

商業コアゾーン

市道整備事業
(第二東通線)

市道整備事業
(大学通り線)

中央病院

十和田市役所

現代美術館

官庁街通り

中心市街地:約129ha

芸術・歴史・文化を活かした
魅力的な市街の形成

○ArtsTowadaプロジェクト・プランの策定

現代美術館を核として来訪者を中心市街地へと誘導し、交流促進を図
るため、アートによる街づくりの行動計画を策定し、活性化事業に反映。

いなおい
○稲生プラザ・ウェスト(仮称)整備事業 (①)

観光情報の提供や物産振興、交流機能を
併せもち、現代
アートの要素も
配置した複合型
商業施設を整備。



○アートファニチャー整備事業 (②)

街並みの一体感をつくりながら
景観の向上
を図るため、
現代アート作
品を設置。

